

日中韓フォーサイト事業
事後評価（平成28年度採択課題）結果

日本側拠点機関名 東京大学大学院農学生命科学研究科（教授・大西 康夫）
研究交流課題名 ゲノムマイニングと合成生物学の融合における放射菌二次代謝産物のケミカルバイオロジー

評価結果（総合的評価）	
☒	S 想定以上の成果をあげており、当初の目標は達成された。
☐	A 想定どおりの成果をあげており、当初の目標は達成された。
☐	B ある程度成果があがり、当初の目標もある程度達成された。
☐	C 成果が十分にあるとは言えず、当初の目標はほとんど達成されなかった。
所見	
新型コロナウイルス感染症蔓延の状況下における日中韓での交流事業としては、共同研究、交流ともに、概ね順調に行われた。 研究成果に関しては、多数の高水準の学術論文発表がみられるものの、当初の想定通りの結果が得られなかった面があり、国際共著論文は必ずしも多くない。また、韓国側、中国側との共同研究がどのように具体的に進められたか、解決すべき課題に対してどのように克服して前進しようとしたか、についての説明も十分ではない。一方、多数の継続的な研究交流活動につながっており、事業終了後の発展に期待が持てる。 若手研究者育成については、計6回行われた3か国間共同セミナーにおいて、学生、ポスドクなど若手研究者中心の研究発表会を開催している。コロナ禍において、対面が難しいため、一部オンラインでのセミナー開催となったが、プレゼンテーション能力の向上及び学術知識の交流がなされており、モチベーションを上げる効果もあったと考えられる。このような若手研究者の発表機会を設けたことは評価できるが、これを継続して伸ばす育成プログラムが明確には示されていない。参加している大学院生・ポスドクの数も多数にわたるため、これらの参加者の満足度評価等のフォローアップ評価の実施、彼らが今後どのような日中韓の研究交流を続けていくかについての具体的な方向性の提示が望まれる。 本プロジェクトを通して、日中韓の若手研究者を中心に、強い研究協力体制が築かれており、この取り組みは大きな可能性を秘めていると思われる。今後の新しい展開に期待したい。	